

委員提出資料

| | | |
|-------|----------|---|
| 資料7-1 | 小杉委員提出資料 | 1 |
| 資料7-2 | 小林委員提出資料 | 5 |
| 資料7-3 | 和田委員提出資料 | 7 |

第 5 回 高校教育部会意見提出

「キャリア教育・職業教育の充実について」

労働政策研究・研修機構 小杉礼子

下記の通り意見を提出します。

昨年 3 月に卒業した高校生の 6.8%が、卒業後就職も進学もしていない(一時的な仕事 1.4%、左記以外(=進学や就業以外) 5.4%)。この未就職卒業者割合は 2000 年代初めには 10%を超えていたが景気改善下で低下し、今、再び上昇している。この変動の背景に労働力需要側の要因が大きいことは確かだが、同時に高校教育の在り方も問われている。特に、これらの未就職卒業者の多くが長期にわたり非正規雇用や失業者のままとどまる事態があり、学校在学中に何をどう学ぶのかということが卒業後のキャリアを大きく左右している。

以下に具体的なデータを示す。東京都在住の 20 歳代の若者に対するアンケート調査¹によれば、高校卒業直後の就業形態が非正規雇用であった者の比率は高卒者の約 3 分の 1、無業・失業状態であった者を加えれば、正社員として就職した数にも匹敵する(表 1)。さらに、調査時点までの就業経歴をみると、離学時も現在も非正規雇用である者(=非典型一貫)が高卒男性の 2 割、高卒女性の 4 割に達する(図 1)。これを卒業した高校の学科別に検討すると、普通科・総合学科卒の場合の非典型一貫の比率が特に高く、職業教育をうけないまま不安定な市場に参入すると長期に滞留しやすい傾向がある。未就職卒業者の 4 分の 3 は普通科卒業者である(「学校基本調査」)。未就職卒業者を出しがちな普通高校においては、地域の労働市場の実情に対応した職業教育(就業準備教育)が求められる。

地域の労働市場のニーズを取り込むことは、専門高校においても重要である。専門高校のうち、工業高校では製造業からの需要が堅調であったことから未就職卒業者を出す比率が低く保たれてきたが、商業高校をはじめ女子の専門高校卒業者については、普通高校卒業者より未就職者比率が高い事態が続いている。専門高校においても、改めて地域産業の労働力需要と職業教育との継続的なすり合わせが必要である。職場体験を超えて、カリキュラムレベルでの産学連携教育の推進、産業界と学校との相互理解を進めることが必要だと考える。

また、普通科におけるキャリア教育は今後とも重要だと思われるが、ただし、それは「やりたいことを決めさせる」という短絡であってはならない。大学生への調査²からは、大学進学時に「卒業後就きたい仕事を決めていた」ことが、現実の内定獲得に結びつくとは限

¹ 労働政策研究・研修機構「第 3 回若者のワークスタイル調査」：都内在住の 20~29 歳の男女(専業主婦と学生を除く)2000 人をエリア・サンプリング法により抽出した留め置き調査、2011 年実施。

² 労働政策研究・研修機構「大学生のキャリア展望と就職活動に関する実態調査」：全国の 4 年制大学のうち、協力を得られた 276 校の 4 年生(医学部、歯学部、看護学部を除く)対象に約 49000 票を配布し 18509 票を有効回収。2005 年 10~11 月実施。

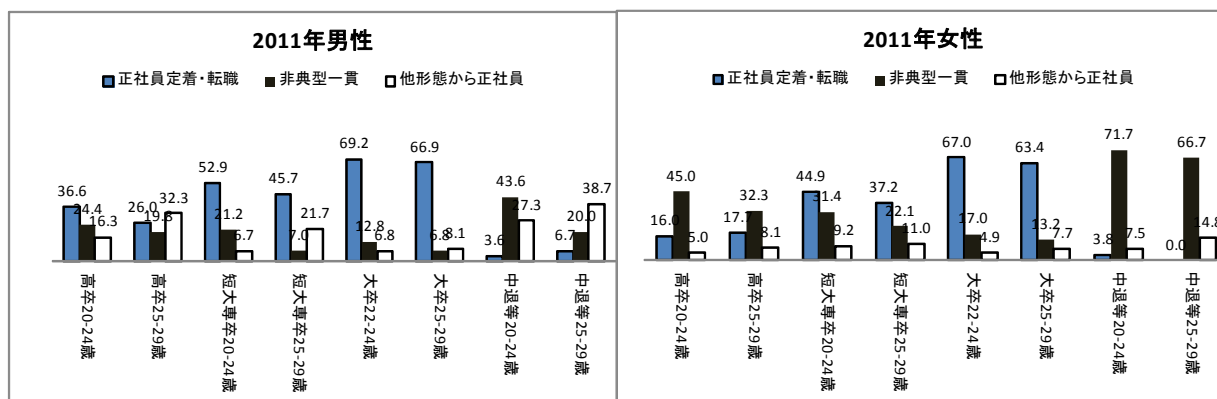
らないことが明らかになっている。キャリア教育・職業教育特別部会で検討された「社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力」に示されているような幅広い観点からキャリア教育で育成する力は考えられるべきだと思う。

表1 学卒直後の就業状況(都内在住の20~29歳)

| | | 正社員(公務含む) | アルバイト・パート | 契約・派遣等 | 自営・家業 | 失業・無職 | その他・無回答 | 合計 | N |
|----|-----------|-----------|-----------|--------|-------|-------|---------|-------|-------|
| 男性 | 高卒 | 46.6 | 34.7 | 4.1 | 3.2 | 9.1 | 2.3 | 100.0 | 219 |
| | 専門・短大・高専卒 | 66.1 | 16.3 | 8.6 | 1.7 | 6.4 | 0.9 | 100.0 | 233 |
| | 大学・大学院卒 | 78.1 | 7.5 | 4.7 | 2.1 | 6.5 | 1.2 | 100.0 | 429 |
| | 中卒・高校中退 | 10.7 | 46.4 | 5.4 | 5.4 | 32.1 | 0.0 | 100.0 | 56 |
| | 高等教育中退 | 9.5 | 63.5 | 9.5 | 2.7 | 10.8 | 4.1 | 100.0 | 74 |
| | その他不明 | 31.6 | 21.1 | 5.3 | 0.0 | 10.5 | 31.6 | 100.0 | 19 |
| | 男性計 | 59.2 | 21.7 | 5.8 | 2.4 | 8.8 | 2.0 | 100.0 | 1,030 |
| 女性 | 高卒 | 43.2 | 36.4 | 9.3 | 4.3 | 4.3 | 2.5 | 100.0 | 162 |
| | 専門・短大・高専卒 | 58.5 | 20.4 | 12.9 | 0.6 | 5.6 | 2.0 | 100.0 | 357 |
| | 大学・大学院卒 | 74.3 | 7.9 | 9.8 | 1.2 | 5.8 | 1.0 | 100.0 | 417 |
| | 中卒・高校中退 | 2.9 | 70.6 | 0.0 | 5.9 | 20.6 | 0.0 | 100.0 | 34 |
| | 高等教育中退 | 4.3 | 58.7 | 8.7 | 6.5 | 21.7 | 0.0 | 100.0 | 46 |
| | その他不明 | 41.7 | 25.0 | 8.3 | 0.0 | 0.0 | 25.0 | 100.0 | 12 |
| | 女性計 | 58.1 | 21.3 | 10.4 | 1.8 | 6.6 | 1.8 | 100.0 | 1,028 |

出所：労働政策研究・研修機構(近刊)

図1 性・学歴・年齢段階別これまでのキャリア



出所：労働政策研究・研修機構(近刊)

表2 卒業学科別これまでのキャリア(高卒学歴の者のみ)

| | 正社員 定着・転 職 | 非典型 一貫 | 他形態 から正 社員 | その他 | 合計 | |
|----------------|------------------|-----------|------------------|------|-------|-----|
| 高校 普通・総合 | 18.1 | 28.2 | 29.5 | 24.2 | 100.0 | 149 |
| 男 高校 商業・ビジネス系 | 40.0 | 16.0 | 20.0 | 24.0 | 100.0 | 25 |
| 性 高校 工業・機械・電気系 | 51.1 | 10.6 | 10.6 | 27.7 | 100.0 | 47 |
| 高校 その他・不明 | 40.9 | 27.3 | 9.1 | 22.7 | 100.0 | 22 |
| 高校 普通・総合 | 10.8 | 55.0 | 7.5 | 26.7 | 100.0 | 120 |
| 女 高校 商業・ビジネス系 | 36.4 | 12.1 | 3.0 | 48.5 | 100.0 | 33 |
| 性 高校 工業・機械・電気系 | - | - | - | - | - | 5 |
| 高校 その他・不明 | 7.7 | 46.2 | 0.0 | 46.2 | 100.0 | 13 |

出所：労働政策研究・研修機構(近刊)

表3 「大学や学部を選ぶときに、卒業後に就きたい仕事のことを考慮した」

| | 内定有 | 内定なし・ 就活中 | 活動なし・就 職希望・迷っ ている | 大学院、公 務員試験等 | 不明 | 合計 | |
|-------------|------|--------------|-------------------------|----------------|------|-------|--------|
| よくあてはまる | 58.8 | 16.2 | 4.0 | 18.6 | 2.4 | 100.0 | 4,962 |
| まああてはまる | 65.4 | 13.4 | 4.6 | 14.4 | 2.2 | 100.0 | 6,590 |
| あまりあてはまらない | 66.1 | 14.2 | 5.1 | 11.9 | 2.7 | 100.0 | 4,304 |
| まったくあてはまらない | 66.6 | 13.8 | 7.1 | 9.3 | 3.2 | 100.0 | 2,553 |
| 無回答 | 58.0 | 12.0 | 11.0 | 8.0 | 11.0 | 100.0 | 100 |
| 全体 | 63.9 | 14.4 | 4.9 | 14.2 | 2.6 | 100.0 | 18,509 |

出所：小杉礼子(2010)

引用文献：

キャリア教育・職業教育特別部会(2010)「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」

労働政策研究・研修機構(近刊)『大都市の若者の就業行動と意識の展開－第3回若者のワークスタイル調査』から』

小杉礼子(2010)「キャリア形成に視点から見た大学教育」『IDE現代の高等教育』第521号

平成 24 年 2 月 16 日

中央教育審議会高等学校教育部会

東京都立北豊島工業高等学校長
小林 薫

第 5 回委員会へ資料提供

1 現状について

- ・ものづくり教育の充実が忘れられて 40 年も経過した。
- ・産業教育振興法によって、昭和 30 年代後半、全国で多くの工業高校が開校した。
- ・昭和 45 年（1970 年）ごろ、高校進学率が 80% を超えた、中学卒業生を受け入れるため普通科高校の増設に拍車がかかった。事務局配付の資料で昭和 50 年ごろから急増している。
- ・高校受験の激化が、偏差値教育の輪切り入試につながった。
- ・普通科高校指向が強くなっている現状を把握しても、有効な手立てをしなかったために、専門高校に弊害をもたらした。
- ・工業高校生は、希望者のほぼ 100% の就職率を確保している。また、就職後 3 年間の離職率も平均で 25% に届かない結果が調査で分かっている。
- ・日本の製造業の最前線で、世界トップの技術を支えている。
しかし、技能五輪国際大会では優勝者が減少傾向である

2 学習面の充実

- ・ものづくりは、若い感性の中で失敗と成功を繰り返し経験することにより体得する。
- ・小学校段階より、一本筋の通った技術教育がなされていない、これが工学部離れや技術者の質の低下につながっている。
- ・安全神話が崩れてきたのも、各年齢段階での技術教育が十分ではないためと考える。
- ・中学校の技術家庭科の授業時数が、激減した事も大きな要因である
昭和 30 年代は 3 年間で 315 時間の授業時間があった。平成 24 年度入学の 1 年生は 3 年間で 175 時間の授業時間しか確保されていない。
ものづくりの楽しさを味わう事ができない。40 人の生徒が一人の教師の指導の下で、作品を完成させる事は物理的に無理である。
中学校の規模によって、常勤の技術科教諭が、配置されない学校が多くなっている
- ・新学習指導要領（平成 24 年度完全実施）では、工業高校を含む専門学科に在籍するすべての生徒に履修させる単位数は 25 単位を下らないこととされています。
専門学科の充実と技術の定着を図るため、履修・修得を 30 単位以上とするべきである。
- ・職業教育及び技術教育にも、不易と流行がある。教職員の資質向上のための研修制度の充実が必要である。

3 制度の充実

- ・就学前・小学校・中学校・高等学校・大学・大学院と、職業教育を一貫して司る組織がない。
- ・文部科学省の組織
昭和 25 年 5 月に、職業教育課が発足
平成 13 年 1 月に、中央省庁組織改編により文部科学省誕生
参事官室が設置され、職業教育等を所管することとなった
平成 21 年 4 月に、児童生徒課産業教育振興室が発足して、職業教育等を所管
職業教育に責任ある立場の組織を発足させるべきである。
経済産業省には
- ・予算の交付金について、現在の一括交付金ではなく、以前のように意図的計画的に、産業教育振興法の趣旨に沿った形で地方公共団体に交付するべきである。

中学校の教科別 授業時間数の推移

別表

| | 昭和37年度 | | | 昭和47年度 | | | 平成5年 | | | 平成14年度 | | |
|-----------|-----------|------|------|--------|-----------|------|------|------|-----------|---------|---------|---------|
| | 1年生 | 2年生 | 3年生 | 合計 | 1年生 | 2年生 | 3年生 | 合計 | 1年生 | 2年生 | 3年生 | 合計 |
| 国語 | 175 | 140 | 175 | 490 | 175 | 175 | 175 | 525 | 175 | 140 | 140 | 455 |
| 社会 | 140 | 175 | 140 | 455 | 140 | 140 | 140 | 455 | 140 | 140 | 70~105 | 350~385 |
| 数学 | 140 | 140 | 105 | 385 | 140 | 140 | 140 | 420 | 105 | 140 | 140 | 385 |
| 理科 | 140 | 140 | 140 | 420 | 140 | 140 | 140 | 420 | 105 | 105 | 105~140 | 315~350 |
| 音楽 | 70 | 70 | 35 | 175 | 70 | 70 | 35 | 175 | 70 | 35~70 | 35 | 140~175 |
| 美術 | 70 | 35 | 35 | 140 | 70 | 70 | 35 | 175 | 70 | 35~70 | 35 | 140~175 |
| 保健体育 | 105 | 105 | 105 | 315 | 125 | 125 | 125 | 375 | 105 | 105 | 105~140 | 315~350 |
| 技術・家庭 | 105 | 105 | 105 | 315 | 105 | 105 | 105 | 315 | 70 | 70 | 70~105 | 210~245 |
| 外国語 | 選択教科の中にある | | | | 選択教科の中にある | | | | 選択教科の中にある | | | |
| 選択教科 | 105 | 105 | 105 | 315 | 140 | 140 | 140 | 420 | 105~140 | 105~210 | 140~280 | 350~630 |
| 道徳 | 35 | 35 | 35 | 105 | 35 | 35 | 35 | 105 | 35 | 35 | 35 | 105 |
| 特別活動 | 35 | 35 | 35 | 105 | 50 | 140 | 50 | 240 | 35~70 | 35~70 | 35~70 | 105~210 |
| 総合的な学習の時間 | | | | | | | | | | | | |
| 合計時間 | 1120 | 1120 | 1120 | 3360 | 1190 | 1190 | 1190 | 3535 | 1050 | 1050 | 1050 | 3150 |

選択教科に外国語を含む

土曜日4時間授業あり

1年間35週、1時間50分授業

土曜日授業なし

| | 平成20年度 | | | 平成24年度 | | | | |
|-----------|--------|--------|---------|---------|--------|------|------|------|
| | 1年生 | 2年生 | 3年生 | 合計 | 1年生 | 2年生 | 3年生 | 合計 |
| 国語 | 140 | 105 | 105 | 350 | 140 | 140 | 105 | 385 |
| 社会 | 105 | 105 | 85 | 295 | 105 | 105 | 140 | 350 |
| 数学 | 105 | 105 | 105 | 315 | 140 | 105 | 140 | 385 |
| 理科 | 105 | 105 | 80 | 290 | 105 | 140 | 140 | 385 |
| 音楽 | 45 | 35 | 35 | 115 | 45 | 35 | 35 | 115 |
| 美術 | 45 | 35 | 35 | 115 | 45 | 35 | 35 | 115 |
| 保健体育 | 90 | 90 | 90 | 270 | 105 | 105 | 105 | 315 |
| 技術・家庭 | 70 | 70 | 35 | 175 | 70 | 70 | 35 | 175 |
| 外国語 | 105 | 105 | 105 | 315 | 140 | 140 | 140 | 420 |
| 選択教科 | 0~30 | 50~85 | 105~165 | 155~280 | 選択教科なし | | | |
| 道徳 | 35 | 35 | 35 | 105 | 35 | 35 | 35 | 105 |
| 特別活動 | 35 | 35 | 35 | 105 | 35 | 35 | 35 | 105 |
| 総合的な学習の時間 | 70~100 | 70~105 | 70~130 | 210~335 | 50 | 70 | 70 | 190 |
| 合計時間 | 980 | 980 | 980 | 2940 | 1015 | 1015 | 1015 | 3045 |

- ①平成4年9月から、月1回の週5日制導入
- ②平成7年4月から、月2回の週5日制導入
- ③平成14年4月から、完全学校週5日制導入

土曜日授業なし

第 5 回高校部会への意見

灘中学校・高等学校 校長 和田孫博

本校のキャリア教育

普通科で全員が大学進学希望者である本校のような高校においては、インターンシップなどは実施が難しい。しかし、進路指導の一環としても、将来どういう職業の選択余地があるかや、自分にはどういう仕事に向いているかを自問する機会は必要不可欠だと考えている。もちろん、各教科の授業の中にも教員がそれぞれそういう内容を積極的に盛り込むことを求めているが、学校全体として何ができるかを議論していく中で、十年前くらいから、総合的学習の一環として土曜講座を設け、次のような取り組みをしている。

土曜講座の概要

年間 6 回程度、土曜日を利用して土曜講座を行っている。もともとの狙いは、月曜から金曜の正規の授業では取り組めないことを校内外の講師を招聘して行うというものであり、講師は本校OBと本校教員が中心で、地域の方々や保護者の皆さんにもご協力いただく場合がある。

講師には、各人の仕事や研究や趣味について、できる限り講演ではなく生徒参加型の授業という形で講義いただく。毎回数講座を並列で開講し、生徒は希望する講座をアラカルト形式で選択することができる。講座内容は別紙のとおり幅広く、また毎年大幅に入れ替わる。生徒は 1 年間に複数受けた講座のうち 1 つを選び、その講座を受講したことから発展させて小論文の形で提出する義務を負う。

講師の大半は本校OBだが、彼らは今やっている仕事や研究内容にとどまらず、本校を卒業してから現在に至るまでのことも語ってくれる場合が多いので、生徒たちは自分の未来の目標だけでなく、それに至るために通っていく道筋を考えることの参考にもなると好評である。

現在では、学校内で行う講座だけでなく、地域の工場見学、法科大学院の模擬法廷を借りての模擬裁判、近隣の医学部の解剖学教室の見学、障害者の工房見学など、拡大的講座も行っている。また、講座内容や講師の選定については生徒たちの要望も取り入れたり、生徒の担当者を決めて講師への事前相談など行わせたりして、生徒の参画度を高めている。

OBの参画を提案

各学校においては、毎年概ね似たような進路に進む生徒が多いはずなので、OBを講師に招聘して、単に現在の仕事について語るだけではなく、卒業後現在までの経路・経験を語ってもらいと、同じ学校で勉強した先輩の話だけに、生徒が将来の進路を考えるのに非常に具体性があり、有意義だと思う。場合によっては保護者や地域の人たちにも同じような効果を求めることができるのではないだろうか。

【土曜講座一覧（高校・2011 前期）】 ☆印は中学との共通講座です。

| 講座番号 | タイトル | 講師 |
|------|--------------------------------|-----------|
| 1 | ☆ ベンチャー企業の技術開発 技術とは何か | ◎古荘 貴司 |
| 2 | ☆ 「ものづくり」の現場へ・タイヤ金型工場見学 | 金田 庄一郎 |
| 3 | ☆ 誰でも趣味で砂金が採れる | △野村 敏郎 |
| 4 | がんと微小環境：がん転移のメカニズムとその治療標的 | ◎二口 充 |
| 5 | ☆ 日本の政治文化と原発問題 | △山田 格 |
| 6 | サルを学ぶ、サルで学ぶ —サルを使った脳研究— | ◎大石 高生 |
| 7 | ベーシッククッキング（キーマカレーと手作りチャパティ） | △布村 沢子 |
| 8 | スポーツ科学 | △武藤 暢生 ほか |
| 9 | ☆ フランス語に親しもう | △巽 義昭 |
| 10 | 宇宙はどこまで分かったのか | ◎吉田 直紀 |
| 11 | ☆ 理系的視点から見たバッハ | ◎山田 剛史 |
| 12 | ☆ ピアノ・室内楽公開レッスン | ◎山田 剛史 |
| 13 | ☆ 阪神・淡路大震災の後、生まれた諸君へ | ◎中山 章 |
| 14 | 心血管カテーテル治療（PCI）の実際 | ◎根来 伸治 |
| 15 | 社会と法と裁判 —奄美大島，東京地裁，最高裁での体験から— | ◎三輪 方大 |
| 16 | ☆ 雑談 ゼータ関数 —解析接続から素数定理まで— | △足立 英昭 |
| 17 | パソコンからスパコンまで 研究とセンター紹介 | ◎竹村 治雄 |
| 18 | ☆ 21世紀における「日本学」の行方 —国民国家の「外」へ— | ◎樋口 大祐 |
| 19 | 解析力学入門 —ランダウ『力学』第1章を読む— | △浜口 隆之 |
| 20 | 多様体入門 | △杉山 登志 |
| 21 | ジェンダー／セクシュアリティ 特別ゼミ | △前川 直哉 ほか |

【土曜講座一覧（高校・2011 後期）】 ☆印は中学との共通講座です。

| 講座番号 | タイトル | 講師 |
|------|------------------------------------|--------------|
| 1 | 学問論 ～わたしは如何にして40年前に中途退学したのか～ | ◎前田 年昭 |
| 2 | ☆ 川柳ワールドを楽しもう | △村上 秀夫 |
| 3 | 金属探知機操作実習 | △野村 敏郎 |
| 4 | ☆ 韓国語に親しもう | △巽 義昭 |
| 5 | ☆ 本を出版しよう！ | △木村 達哉 |
| 6 | 地域医療に貢献する —医学部卒業生の6割は町医者になります。 | ◎田邊 誠 |
| 7 | 料理初心者のための和食講座 | △布村 沢子 |
| 8 | 制御工学：動きをデザインする科学技術 | ◎津村 幸治 |
| 9 | ☆ 言語行動の日中対照研究 —謝罪・依頼表現を中心に | 李 ヨウ |
| 10 | ☆ 雑談「楕円積分，楕円関数からフェルマーの最終定理証明にいたる道」 | △足立 英昭 |
| 11 | 医者になるもよし ならぬも佳し | ◎吉栖 正生 |
| 12 | ☆ 山から学んだもの | ◎山田 淳 |
| 13 | 議論の練習 | △山田 格 |
| 14 | 生命現象の理解と応用を目指す科学研究 | ◎森口 裕之 |
| 15 | 高校生のための量子力学入門 | ◎高倉 樹 |
| 16 | ☆ 『好き』を仕事にする という生き方 | ◎町 裕太 |
| 17 | ☆ ウェブの最先端から見通す未来 | ◎町 裕太 |
| 18 | ☆ バンドレッスン | ◎園田涼・熱田哲・橋本怜 |
| 19 | ☆ ミニコンサート+Q&A | ◎園田涼・熱田哲・橋本怜 |
| 20 | 相対論入門 — 論文『運動物体の電気力学』第1部を読む — | △浜口 隆之 |
| 21 | 精神障害を生きる／支える | △片田 朝日 |
| 22 | ☆ 定規不要の作図 —易しい英語論文を解説しよう— | △河内 一樹 |
| 23 | ☆ 新校舎はこうして出来る | ◎吉田 忠司 |

(注) 講師のうち ◎は本校OB △は本校教員 無印は保護者または地域の方